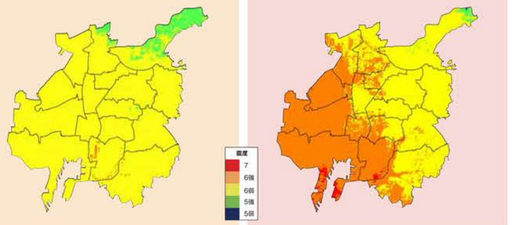
あなたの街の 地震ハザードマップ

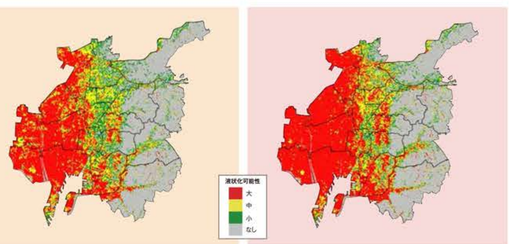
保存版 昭和区

過去の地震を考慮した最大クラス　あらゆる可能性を考慮した最大クラス

震度



液状化



このマップは、本市が平成26年2月に公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」をもとに、各地で想定される震度や液状化の可能性、避難所などを示したものです。
南海トラフにおいて、おおむね100～200年の間隔で繰り返し発生する地震として「過去の地震を考慮した最大クラス」と、千年に一度あるいはそれよりももっと発生頻度が低いが、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす地震として「あらゆる可能性を考慮した最大クラス」の2つの地震を想定しています。

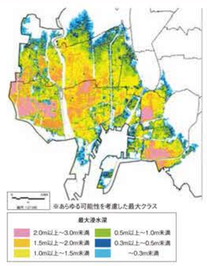
防災マップの最新情報は
名古屋市公式ウェブサイトでご覧いただけます。 www.city.nagoya.jp
名古屋市 防災マップのページ 検索

「名古屋市防災アプリ」でハザードをご確認いただけます。
無料ダウンロード 名古屋市防災アプリ iOS版 アンドロイド版

名古屋市 問い合わせ先 防災危機管理局地域防災室 TEL 052-972-3591 FAX 052-962-4030

平成30年8月時点

津波について



津波等の様相

●本市で予想される津波は、12時間程度続きます。本市が外海ではなく伊勢湾の奥に位置することから、東北地方太平洋沖地震とは異なり、白波を伴わずに海面全体が上昇し、その後下降するといった津波が予想されます。そのため、視覚的に津波と判断できなくても、できるだけ高いところへ避難してください。
●本市の陸地に浸水する津波の速さは、海岸や河川に近い地域では一般成人の走る程度（毎秒2m程度）、内陸部では早歩き程度（毎秒1m程度）以下ですが、場所によってはそれよりも速くなる場合があります。また、障害物などにより津波からまっすぐ逃げられるとは限りませんので、津波が見えてからでは逃げ遅れる可能性があります。強い揺れを感じたら津波を警戒してできるだけ高いところへ避難してください。
●堤防が破壊した場合は、津波が到達する前に海や川の水が流入するおそれがあります。また、津波が収まっても地盤の低い地域では浸かったままの状態が長期間にわたって続くおそれがあります（あるいは潮汐によって一時的な浸水を繰り返します）。

マップの利用方法

1 自宅と指定緊急避難場所、指定避難所の位置を確認しましょう。

自宅と指定緊急避難場所、指定避難所の位置を確認しましょう。また、自宅や地域全体で想定される地震の被害状況も確認しましょう。

2 避難経路を決めておきましょう。

土砂災害（特別）警戒区域等がある場所を避けて、避難経路を決めておきましょう。また、橋の崩落や液状化の可能性も考慮して、避難経路を複数設定しましょう。

3 実際に避難経路を歩いてみて、安全か確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に避難経路を歩いて、気づいたことなどを地図に書き込んでみましょう。なお、避難経路に危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。

※お住まいの行政区・学区に関わらずどなたでも最寄りの指定緊急避難場所、指定避難所に避難することができます。

スマートフォンでも、ハザード情報や指定避難所の情報などを確認できるアプリを無料配信します。

【スマートフォン用アプリについてはこちら】
詳しくは市ウェブサイト 名古屋市防災アプリ 検索
問い合わせ先
防災危機管理局危機対策室 TEL052-972-3526

地震による揺れの大きさや液状化のしやすさは、そこの土地がかつてどのような地形だったかにも影響されます。

【過去の地形を確認するにはこちら】
詳しくは市ウェブサイト 都市計画情報 検索
閲覧 名古屋市役所西庁舎4階（開庁時間内のみ）
問い合わせ先 住宅都市局都市計画課
TEL052-972-2712

日頃からの地震への備え

その1 生命を守るにはわが家の耐震!

名古屋市の耐震化支援制度を利用して、家の耐震化を図りましょう。

《昭和56年5月以前に着工した住宅》

▶木造住宅の無料耐震診断
・プレハブ、ツーバイフォー工法等は対象外
・2階建て以下

▶木造住宅の耐震改修助成
・市の無料耐震診断において、1.0未満と判定された木造住宅
・耐震改修工事費の4/5で最大100万円（市民税非課税世帯は、4/5で最大150万円）
・段階的改修助成あり

▶耐震シェルター等の設置助成
・市の無料耐震診断において、0.7未満と判定された木造住宅で、65歳以上の方などが居住している世帯
・設置費用の1/2以内で最大30万円（市民税非課税世帯は、3/4以内で最大45万円）

▶非木造住宅の耐震診断・改修助成
・耐震診断費の2/3（上限あり）、改修設計費の2/3及び改修工事費の約15%（上限あり）
・段階的改修助成あり

▶耐震相談員の派遣（無料）
建築物の耐震対策に関するアドバイスを行うため、耐震相談員を派遣（建築年は問いません）

そのほかにも、以下のような支援制度があります。
●ブロック塀等の撤去助成
●地域ぐるみ耐震化促進支援事業

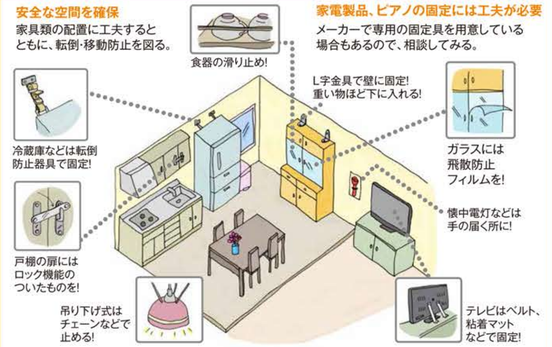
※制度内容は、平成30年4月現在のものです。

耐震化支援制度についてはこちら
詳しくは市ウェブサイト 耐震対策 検索
問い合わせ先 住宅都市局耐震化支援室 TEL 052-972-2787

家具が凶器にならないようにしよう!

安全な空間を確保
家具類の配置に工夫するとともに、転倒・移動防止を図る。

家電製品、ピアノの固定には工夫が必要
メーカーで専用の固定具を用意している場合もあるので、相談してみる。



その2 暮らしを守るには地域の協働!

防災学習

防災訓練

地域での防災訓練　企業での防災訓練　学校での防災訓練

家族みんなで話し合ってみよう（家族防災会議）!
・わが家に危険なところはないか
・どう行動し、どこに何を持って避難するか
・外出時はどうやって連絡を取り合うか
・家族が離れた場所にいるときは、どこで落ち合うか

地域での防災活動に参加しよう!

大災害では、市や消防・警察をはじめとする防災関係機関の活動が十分にできない事態も想定されます。「自分で自分や家族を守る（自助）、市民や事業者が助け合って地域を守る（共助）」という気持ちをもって、地域の活動に参加しましょう。

自主防災組織
町内会・自治会単位に結成されている自主防災組織の活動に参加し、普段から防災力の向上に努めましょう。

消防団
地域には消防の活動を手助けする消防団があります。専門的技術を備えた地域防災のリーダーとなる消防団員の活動に、積極的に参加しましょう。

ボランティア
災害時には被災した方々を速やかに救護し、自立を助け、地域社会を再建する力としてボランティアが必要です。可能な範囲でボランティアにも参加しましょう。

企業
企業も地域の一員として協働の関係を築き、防災活動に参加しましょう。
職員の安全を確保し、事業の継続を図るために、自らの防災対策も進めましょう。

学校
学校は災害時に指定避難所となるほか、地域の拠点となります。地域と学校のつながりを深め、学校を中心に地域の安全について考えてみましょう。
今の子どもたちは将来地震に遭遇する可能性が高いので、学校でも防災について学びましょう。

避難のこころえ
まずは隣近所の声かけから、地域での「助け合い」を大切に。病人や歩行困難な人を援助しながら避難する。

防災情報の入手方法

防災情報は自ら入手しましょう!

地震や大雨などの災害が発生した時、または災害が発生するおそれがある時は、防災に関する情報を、テレビ・ラジオだけでなく様々な手段で市民の皆さんにお知らせします。

なごや減災プロジェクト（運営：(株)ウェザーニューズ）
市民の皆様から寄せられた災害時の被害情報や気象に関する情報を、携帯電話やパソコンを活用してインターネット上で共有するためのウェブサイトです。名古屋市からの災害緊急情報もお知らせします。
▶パソコンサイト http://weathernews.jp/gensai_nagoya/
▶モバイルサイト http://wni.jp/?nagoya

緊急速報メール
対応する携帯電話に緊急情報を一斉配信するサービスです。ご利用されている携帯会社にご確認ください。
受信できない方は「きずなネット防災情報」に登録してください

「きずなネット防災情報」
登録型のメール配信サービスです。
m.saigai@cep.jp へ空メールを送信し、返信メールの内容に沿って登録してください。

※フェイスブック、ツイッターでもお知らせします。「名古屋市防災」で検索してください。

もっと防災について知りたい方は

市の対策等	名古屋市公式ウェブサイト	http://www.city.nagoya.jp
自然現象全般	気象庁	http://www.jma.go.jp
Web学習	愛知県防災学習システム	http://www.quake-learning.pref.aichi.jp
体験学習	名古屋市港防災センター	http://www.minato-bousai.jp

安否の確認方法

「災害用伝言ダイヤル171」の活用

大規模災害発生時に家族の安否等の情報を電話で伝言として保存したり、再生することのできるNTTが行うサービスです。

伝言の録音方法
171にダイヤルする
ガイダンスが流れます
録音の場合 1
ガイダンスが流れます

伝言の再生方法
171にダイヤルする
ガイダンスが流れます
再生の場合 2
ガイダンスが流れます

「災害用伝言板サービス」の活用

大規模災害発生時に家族の安否等の情報を携帯電話を使って文字で登録したり、確認することができるサービスです。お問い合わせは携帯電話各社まで。

「災害用伝言ダイヤル171」「災害用伝言板サービス」を体験してみよう!

体験できる日
●毎月1日及び15日（1月は1日～3日）
●防災週間（8月30日～9月5日）
●防災とボランティア週間（1月15日～21日）

地震発生!そのときどうなる?どうする?

▶居間や寝室では…

家具やテレビなどが倒れたり、飛んだりします。また、ドアが開かなくなることがあります。

★机の下などに潜り身を守る!
★ガラスの破片など、足元に注意!
★ドアや窓を開けて脱出口確保!
★外に出る時は落下物に注意!
★ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切ってから避難!

▶台所では…

火事になることがあります。

★可能なら火を消す!無理なら揺れが収まってから消す!
★やけどの危険があれば、すぐにその場から離れる!
★出火があれば、落ち着いて初期消火!

▶海岸や河口にいるときは…

津波が繰り返し押し寄せるおそれがあります。引き波も危険です。

★地震を感じたら高台や高い建物にすぐ避難!
★津波警報・注意報解除まで海岸に近づかない!

▶崖のそばにいるときは…

急傾斜地や丘陵の宅地造成地で崖崩れのおそれがあります。

★すぐに崖から離れる!

▶低地や埋立地にいるときは…

地盤の液状化や浸水などが起こり避難できなくなる可能性があります。

★低地や埋立地の外もしくは高台に避難!

▶電車やバスに乗っているときは…

急ブレーキや脱線の可能性があります。

★吊り革や手すりにしっかりつかまる!
★乗務員等の指示に従う!

▶自動車を運転しているときは…

パンクしたような感じになり、ハンドルをとられて運転が困難になります。

★車を左側に寄せてエンジン停止!
★ラジオなどで災害情報を確認!
★ドアロックせず、キーはつけたままで避難!

▶学校や勤め先にいるときは…

机や書棚などが動き、倒れ、物が散乱します。

★机の下などに潜り身を守る!
★学校では先生の指示に従い避難!
★勤め先では役割分担に従って行動!

▶住宅街やビル街を歩いているときは…

古い建物やブロック塀、自動販売機などが倒れ、看板やガラス、瓦などが落下してくることがあります。

★身を守り、建物などからすぐに離れる!

▶地下街にいるときは…

一時的に停電したり天井材などが落ちてきたりすることがあります。

★案内表示、従業員等の指示に従い避難!
★パニックにならず、落ち着いて行動!

▶デパートや映画館にいるときは…

商品などの転倒や移動、天井材や照明の落下が起きる可能性があります。

★商品棚などから離れ、頭をかばい、身を守る!
★従業員の指示に従い、落ち着いて行動!
★エレベーターは使用しない!

▶工場や危険物のある場所にいるときは…

設備の転倒や落下、危険物の流出が起こることがあります。油の流出に津波が重なると、大きな火災になる可能性があります。

★近隣の方は、いつでも避難できる態勢を!
★従業員の方は、被害拡大防止策を講じたのち避難!

▶高層ビルにいるときは…

ゆっくりとした大きな揺れが長く続くことがあります。

★従業員の指示に従い避難!
★エレベーターに乗っている時は全ての階のボタンを押し、停止した階で降りる!閉じ込められた場合は非常ボタンを押し続ける!
★エレベーターは使用しない!

要配慮者支援

本市では、高齢者や障害者など災害のときに地域の支援が必要な方々について「どこに住んでいるか」「どのように安否を確認するか」「どのように避難誘導するか」などを地域で事前に話し合って決めておく「助け合いの仕組みづくり」を推進しています。
要配慮者の方々を災害から守るために地域の皆さんで協力し助け合いましょう。

高齢者・病人など
●援助が必要なときは、できるだけ複数の人で対応する。
●誘導する時は、その人の体力に応じて、ゆっくり歩く。

目の不自由な方
●話す時は、ゆっくり大きな声で対応する。
●誘導する時は、杖をもっていない方の肘のあたりに軽く触れるか、腕を貸して半歩程度前をゆっくり歩く。
●「あっち」「こっち」と言わず、「右斜め前10m」や時計の文字盤を想定して「10時の方向」などわかりやすく説明する。

肢体の不自由な方
●障害に適した誘導方法を確認しておく。
●車椅子の場合、階段では複数の人で協力する。上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないよう配慮する。

耳の不自由な方
●話す時は、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かす。
●口頭でわからなければ、紙とペンで筆談する。紙やペンがなければ、相手の手のひらに指先で文字を書いて筆談する。

家族の行動計画表

家族で話し合って表に書きこみましょう。

名前	日頃よくいるところ	一時避難先（広域避難場所など）	集合場所	連絡先
記入例 名古屋 太郎	会社	△△公園	○○小学校	090-0000-0000

備蓄品・非常持出品 チェックリスト

災害や避難に備えて、普段から準備・点検しておきましょう。

備蓄品 災害に備えて用意しておきたいもの

命をつなぐために用意しておきたいもの
□保存がきく食品（自分が食べやすいもの）
□常備薬（持病の薬を含む）
□飲料水（ペットボトル）
1人1日3リットルが目安です。また、水分の多い食品（ゼリーなど）と組み合わせることで量を減らすことができます。

7日分程度用意しましょう

防災用品
□給水用のポリ容器・バケツ
□ロープ
□バール
□のこぎり・工具など

燃料
□カセットコンロ（予備のボンベ含む）
□固形燃料

寝具等
□毛布
□寝袋
□キャンプ用テント

便利用品
□ドライシャンプー

内3日分程度は非常持出品へ

非常持出品 避難する時に持っていくもの

防災用品
□携帯ラジオ
□ヘルメット・防災ずきん
□軍手
□マスク

貴重品
□現金（小銭も必要）
□預（貯）金通帳の写し
□健康保険証・免許証の写し
□カード類
□認印・印鑑など

照明等
□懐中電灯（電池含む）
□マッチ・ライター

医療用品
□三角きん
□包帯・ガーゼ
□ばんそうこう
□消毒薬
□ウェットティッシュ（ティッシュ）
□お薬手帳

食器類
□はし・スプーン
□紙皿・紙コップ
□水筒

衣料品
□衣類（着替え）
□タオル（大小2種類）

便利用品
□筆記用具
□新聞紙
□携帯用トイレ
□ゴミ袋
□キッチン用ラップ
□使い捨てカイロ
□雨具
□手動携帯電話充電器
□トイレットペーパー

その他（個人的に必要なもの）
□粉ミルク
□紙おむつ
□生理用品
□予備のメガネ・補聴器など

※ローリングストック法
家庭で消費している日持ちする食品をストックしておき、使った分を買い足すことで、普段の生活の中で負担なく備蓄することができます。

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。